

データ透過モード（通信モード 2: 自動接続モード）

1. システム構成

送信するデータをフリーフォーマットで入力して、送信します。

設定はメモリレジスタで行い、1:1 通信のみ可能です。

RS232C のデータ線 (TxD)、制御線 (DTR, RTS, DCD) を監視し、信号レベルの変化を検出すると、電波の送出を開始して無線回線の接続を行います。

通信時間以外は、電波を送出したくない場合に適しています。



2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

【モデム 1】

```

REG00:00H (アドレス 0)
REG01:F0H
REG02:01H (宛先アドレス 1)
REG03:01H
REG04:00H
REG05:00H
REG06:00H (周波数ホッピングパターン 0)
REG07:05H
REG08:11H
REG09:13H
REG10:40H
REG11:32H
REG12:05H (回線接続タイムアウト 5sec)
REG13:1EH
REG14:00H
REG15:01H (コマンド認識インターバル 0.1sec)
REG16:32H
REG17:32H
REG18:1DH (データ透過モード、自動接続/切断モード、宛先アドレスチェックを行う)
REG19:40H (マスター局、ダイバシティ受信を行う)
REG20:07H (RS232C: 38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
REG21:09H
REG22:00H
REG23:00H
REG24:00H
REG25:0DH
REG26:0AH
REG27:00H
REG28:00H
REG29:00H
REG30:00H
REG31:00H

```

【モデム 2】

```

REG00:01H (アドレス 1)
REG01:F0H
REG02:00H (宛先アドレス 0)
REG03:01H
REG04:00H
REG05:00H
REG06:00H (モデム 1 同様)
REG07:05H
REG08:11H
REG09:13H
REG10:40H
REG11:32H
REG12:05H (モデム 1 同様)
REG13:1EH
REG14:00H
REG15:01H (モデム 1 同様)
REG16:32H
REG17:32H
REG18:1DH (モデム 1 同様)
REG19:02H (スレーブ局)
REG20:07H (モデム 1 同様)
REG21:09H
REG22:00H
REG23:00H
REG24:00H
REG25:0DH
REG26:0AH
REG27:00H
REG28:00H
REG29:00H
REG30:00H
REG31:00H

```

《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- レジスタ設定を反映させるには、@RST コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。

4. 通信手順

2 台のモデムの電源を投入し、一方のモデムにデータを入力すると、無線の接続処理が開始され、接続が完了すると、LED の“C0”が緑点灯になり、通信が可能になります。

REG12 に設定された時間以上通信が行われない場合には、無線回線を切断します。

モデム 1 から、モデム 2 への通信

[モデム 1]> HELLO

[モデム 2]< HELLO

《注意事項》

- モデム 1、モデム 2 のどちらからの送信でも、無線回線の接続処理は行われます。
- LED は回線接続中のときは、C0 が緑点灯、スレーブの PW が橙点灯で、それ以外は赤点灯になります。データ入力時は送信側の SD が緑点灯して、送信が終わると赤点灯に戻ります。
- データを入力しても LED の C0 が赤点灯のままのときは、通信できません。
- コマンドヘッダは有効です。コマンドヘッダをデータとして送信する場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を適切な値に設定してください。詳細は、取扱説明書をご参照ください。